

Encourage & Company

皆さんこんにちは。
エンカレッジアンドカンパニーの堀です。

私のコラムでは、中国の故事成語について、我々の日常に何か応用できないか、という観点でシリーズとして書き綴っています。

今はもう、両親を亡くしているので確認できませんが、なんとなく母は私を「白い巨塔」の里見脩二先生のような人になるよう育ててくれた気がします。山崎豊子の小説はなんとなく私にとって心地よいので、誰に薦められるわけでもなく、読んだり観たりしました。

だいぶ歳をとってからの話しですが、山崎豊子作品の信念を貫き人々に共感を与える主人公の多くが、共感を与えるもののまったく幸せな結末にならないことに気がつきました。この対立軸は、信念を貫くか、長いものに巻かれるか、という人生観の違いだと思います。この2つの人生観を善悪のパラダイムで考えるつもりは全くありません。人々に共感を与え支持されまさに天道とも言えるのに、何でむしろ不幸になるのかというその原理に着目したいのです。

史記に出てくる伯夷（はくい）・叔齊（しゅくせい）兄弟の話しは、ちょうど上記ジレンマの2100年前版です。普遍的な人生観のジレンマをご紹介します。

史記の作者司馬遷は「本編」とは別に「列伝」を書き、史記全体の思想的背景を明らかにするために、最初の列伝に先ほどの伯夷列伝を持ってきました。史記全体に貫かれている思想的背景は「天道は是か非か」つまり、天道というものは、正しいものなのか正しくないものなのか、を世に問うものです。

ココで伯夷・叔齊兄弟について簡単にご説明します。伯夷と叔齊は共に孤竹国の王子で、伯夷が長男で叔齊は三男です。父親から弟の叔齊に王位を譲ることを伝えられた伯夷は、遺言に従って叔齊に王位を継がせようとしてしました。しかし、叔齊は兄を差し置いて位に就くことを良しとせず、あくまで兄に王位を継がせようとしてしました。そこで伯夷は国を捨てて他国に逃れてしまいました。叔齊も王位につかずに兄を追って出国してしまいました。国王不在のため困った孤竹国は次男を王位につけました。

流浪の身となった二人は周の文王の良い評判を聞き、周へ向かいましたが、二人が周に到着したときにはすでに文王は亡くなっており、息子の武王が、呂尚（太公望）を軍師に立て、悪逆で知られた殷の紂王を滅ぼそうと軍を起こし、殷征伐に向かう途中でありました。二人は道に飛び出し、馬を叩いて武王の馬車を止め「父上が死んで間もない

Encourage & Company

のに戦をするのが孝と言えましょうか。君主の紂王を討つのが、仁であると申せましょうか」と諫めました。周圉の兵は怒り2人を殺そうとしましたが、呂尚（太公望）は「手出しをするな！正しい人たちだ」と叫び、2人を逃がしました。

その後、殷は滅亡し、武王が新王朝の周を立てた後、二人は周の粟を食べる事を恥として周の国から離れ、首陽山に隠棲して山菜を食べていましたが、最後には餓死しました。死に臨み詠んだ歌が下記です。

首陽山に登り ぜんまいを採って暮らそう。
暴によって暴にかわり、その非に気づかない。
神農や舜帝、禹王の世は今はない。
いずこに行けばよいのか。ああ、もうおしまいだ。天命も衰えた。

現代の世の中で考えると、伯夷・叔斉の人生観はいい人過ぎるかもしれないですが、そのいい人がなぜ飢え死にしなければならなかったのか？という問いが、史記伯夷列伝で語られる「天道は是か非か」というわけです。

下記史記伯夷列伝を読んで、司馬遷の問うているテーマに、皆さんはどう答えますか？

ある人は言った、「天の道は特定の人だけを親しくするようなことはしない。いつでも善人の味方である」と。伯夷・叔斉のような人は善人というべきものだろうか、そうでないのだろうか。(ふたりは)人徳にかなった行いを積み重ね、清廉潔白な行為を行って、しかも餓死した。それに(孔子の)七十人の弟子の内、仲尼はただ顔淵だけを学問好きな者として推薦した。しかし、顔淵はしばしば経済的に困窮し、粗末な食事さえ満足に取れず、とうとう若死にした。天が善人に報いるとは、いったいどういうことなのか。

盗賊は毎日罪のない人を殺して人の肉を刺身にして食べ、乱暴で勝手にふるまい、数千人で徒党を組んで、天下の中を暴れまわったが、結局天寿を全うした。これは何の徳によるものだろうか。これはもっとも(矛盾が)はっきりとしている物である。

近世になっても、品行が悪くて道に外れ、もっぱら法で禁止されていることを犯していても、生涯遊び楽しみ裕福な暮らしをし、子孫代々続いていく者、あるいは仕えるべき場所を選んで仕え、言うべきときに発言し、公明正大で、それだけに心を奮い立たせるも、災難に遭うような者は数え切れないほどである。(だから)私はひどく戸惑うのである。もしかすると、世間で言う天の道ははたして正しいのか正しくないのか？

ちなみに私は、天道を信じるも、それをもって実利を得ることとは違うのではないかと思います。何千年も思い悩む、正解のない問答ですね。

堀 洋三

-バックナンバー中国故事成語をビジネスに応用する-

第1回目は「牛耳る」

第2回目は「鳴かず飛ばず」

第3回目は「司馬懿仲達」

第4回目は「我れ鳥獣にあらず」

第5回目は「国士無双」「狡兔死して走狗煮らる」

第6回目は「鼓腹撃壤」

第7回目は「外戚」

第8回目は「論語①」

第9回目は「東郭先生と狼」

第10回目は「孫子の兵法」

第11回目は「漢中（場所）」

第12回目は「不如意」

第13回目は「孟嘗君」